



施策 上下水道・雨水対策

目指す
状態

市民生活を支える社会基盤として、耐震化・老朽化対策を進めるとともに、持続可能で健全な事業運営を目指します。



1 施策の現状と課題

- 本市の上水道は、1955年（昭和30年）の給水開始から、急激な人口増加と都市化の進展による水需要の増加に対応するため、数度にわたる拡張事業を行い、現在に至っています。
- 今後は、これまでに建設した施設を健全な状態で維持していくことが重要であり、特に本市では人口急増期に建設した施設が老朽化し、更新時期を迎えていくことから、対応が必要となっています。
- また、大規模な地震においても生活用水の供給が途切れることのないよう、耐震化を進める必要があります。

施策の方向性 上水道の整備と災害への備え

老朽化が進む管路や施設については、更新と維持管理に努めます。
また、計画的に耐震化を進めることにより、有事の際においても、避難所などへの給水を可能とします。水源井戸の適正な維持管理を行い、水源の保全に努めます。また、水質監視に努め、いつでも安全・安心な水道水を供給します。

2 施策の現状と課題

- 本市の下水道事業は1960年（昭和35年）に始まり、旧沼南町の公共下水道との統合を経て、現在では全体計画区域7,360haに及んでおり、大部分が雨水と汚水を別々の管で排水する分流式下水道となっています。
- 人口急増期に建設した施設が老朽化しつつあることから、上水道と同様に、今後は更新需要の増大が見込まれます。また、過去に経験したことのない大規模な災害に対しても、適切に対応していくことが求められています。

施策の方向性 下水道の整備と災害への備え

市民の衛生的で快適な生活のため、下水道の整備に努めます。また、ストックマネジメント計画に基づいて下水道管きよの予防保全型維持管理を行うとともに、施設の老朽化対策を進めます。
管きよや下水道施設の耐震化を計画的に推進するとともに、災害用トイレ（マンホールトイレ）の設置等を進めます。

3 施策の現状と課題

- 近年、台風や集中豪雨等により、市内では上大津川等の河川敷における浸水被害だけでなく、各所で内水氾濫が発生しています。
- 本市では、排水機能を高めるため、河川や水路の整備を進めていますが、激甚化する雨水災害に対し、公助だけでなく自助や共助の取組が求められています。
- 避難行動等、早期の安全確保を促すため、降雨情報に加えて河川や水路等の水位情報を速やかに市民へ伝達する仕組みが必要であると考えられます。

施策の方向性 洪水被害の抑制を図る

今後も、浸水被害に強い安全な都市の形成を目指し、国・県との連携による河川整備等を引き続き進めるとともに、雨水管等の排水機能を確保するための施設整備を実施していきます。
また、本市が管理する水路、雨水調整池、樋管等の維持管理と機能向上に努めます。これら基盤整備と併せ、事業者等による開発行為に対しては雨水の流出抑制を求め、個人等による建築行為に対しては雨水浸透柵設置等の協力を求めています。
台風や集中豪雨等による浸水被害に備え、市民の安全な避難行動につながるよう降雨情報や河川・雨水管の水位等について、関連部署と連携を図りながら情報発信の充実に取り組みます。
行政によるハード整備を進めるとともに、止水板設置費用を補助するなど、市民の自主的な対策の周知・啓発に努めます。